

ふくしまから
はじめよう。

東日本大震災に学ぶ、 地域トータルデフェンスの在り方

～障がいのある児童生徒の避難の現状と課題～



主催 福島県特別支援教育振興会いわき支部
日時 平成25年10月2日(水)9:30～11:30
場所 いわき市総合保健福祉センター 多目的ホール



いわき市内4校へのアンケート調査

(平養護学校・いわき養護学校・聾学校平分校・富岡養護学校)

- 依頼開始 平成24年10月28日
- 回収締切 平成24年12月10日
- 依頼数 100件(各校25件)
- 回収率 56%(56件／100件)

(※62%(56件／90件)聾平分校15件)

各校のアンケート回収状況

- 平養護学校

依頼数	回答数	回収率
25	16	64%

- いわき養護学校

依頼数	回答数	回収率
25	15	60%

- 聾学校平分校

依頼数	回答数	回収率
25 (15)	8	32% (53%)

- 富岡養護学校

依頼数	回答数	回収率
25	17	68%

1 地震発生時の居場所について (幼児児童生徒)

	いわ養	平 養	聾分校	富 養	合計
自 宅	5	1	0	3	9
学 校	2	3	4	2	11
その他	8 買い物2、バス 停2、駅1、車2、 施設1	12 施設7、車4、 祖父母宅1	4 保育園2、祖父 母宅2	12 施設6、車5、 他県1	36
合 計	15	16	8	17	56

2 地震発生時の居場所について (保護者)

	いわ養	平 養	聾分校	富 養	合計
自 宅	3	2	2	3	10
職 場	4	8	6	8	26
その他	8	6	0	6	20
合 計	15	16	8	17	56

○その他の主な場所: 迎えに行くために移動中、バス停、学校、施設等

3 震災発生の確認(保護者)

	いわ養	平 養	聾分校	富 養	合計
自分自身	13	12	8	12	45
学校からの連絡	1				1
同級生の保護者	1				1
ラジオ		1		1	2
テレビ		2		3	5
職場内の同僚		1		1	2
合 計	15	16	8	17	56

ほぼ全員が、即時的に発生を確認！

4 震災発生後の親子の連絡

	いわ養	平 養	聾分校	富 養	合 計
すぐに確認	10	10	3	9	32
すぐには確認できず	5	5	5	8	23
未記入		1			1
合 計	15	16	8	17	56

5 連絡が取れなかった主な理由

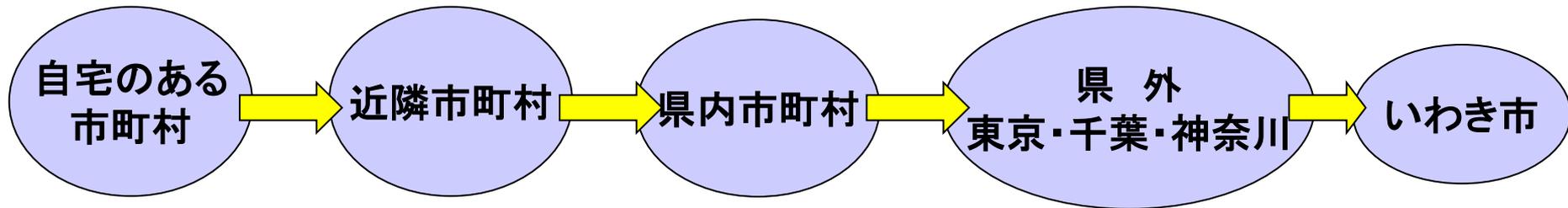
- 電話が繋がらなかった。
- 電子メールの送受信ができなかった。
- 保護者自身が被災し身動きがとれなかった。
- どのように動いて良いのか判断できなかった。
- 学校からの連絡が十分でなかった。
- 地区防災係のため、すぐに子どもへ動くことができなかった。

- ・連絡が取れるまでに、数時間かかったとの回答多数
 - ・中には、20時間後、48時間後との回答も
 - ・会うことができたのは、自宅や学校ではなく、避難先で会うことができたとの回答も複数

6 震災後の避難状況

	いわ養	平 養	聾分校	富 養	合計
避難せず	6	9	4	5	24
避難した	9	7	4	12	32
合 計	15	16	8	17	56

7 避難経路及び子どもの状況



- 避難件数は32件で回答者(56名)のうち57%
- 避難中にけがをした幼児児童生徒は0名
- 現在の生活拠点はいわき市又は自宅のあった町村
- 避難先での生活継続は17件(30.3%)
- 避難継続の17件も震災前と同じ学校に通学

8 現在の子どもの様子



	いわ養	平 養	聾分校	富 養	合計
変わらない	8	10	7	7	32
不安・心配 有り	5	5	0	9	19
未記入	2	1	1	1	5
合 計	15	16	8	17	56

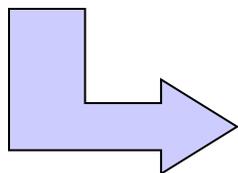
9 子どもたちが感じている不安

- ・自宅にいつ戻れるのか
- ・「被曝してしまう」と繰り返し話す
- ・地震を怖がる
- ・外出(外泊)が減った
- ・地震発生時、吐き気や精神的に不安定な状態になる
- ・自宅に帰りたい気持ちを言葉で表現しない
- ・借り上げ住宅を自宅と考えるようにしているストレス



10 子どもたちの様子で心配なこと

- ボーッとしていることがある
- 何年もなかったてんかん発作が起きた
- イライラしている
- 不眠、寝付きが悪い
- 避難先住宅での生活リズムの変化に伴う体調の乱れ・ストレス
- 衣・食・住すべてに強いこだわり
- 精神的不安(反抗的、甘え、泣き出す等)
- 今までできていたことができなくなった
- 地震に敏感。「津波は大丈夫」と聞いてくる



精神面・身体面の健康に対する不安

11 震災後、保護者として気をつけていること

● いわき養護学校



- 防災ワッペンを学校から購入し着けさせて外出させている
- 外出中は迷子にならないよう以前より目配りしている
- 学校からの情報を得るために緊急連絡網へ登録
- すぐに避難するよう意識
- ガソリン、防災品の準備
- 購入する食品の産地を確認
- 自宅以外での宿泊に慣れるための練習の実施
- 放射線量の測定
- インターネットや書籍で放射能に対する学習の実施

平養護学校

- ・吸引器のこまめな充電。充電用品の購入、準備
- ・自家用車へのこまめな給油
- ・備蓄品(子どもが食べられる食料品等)の準備
- ・すぐに避難できるように荷物を準備
- ・子どもを一人で留守番させない
- ・食料品の選び方に注意(放射線の影響を考慮)
- ・薬を飲むためのペットボトル水、流動食の常備
- ・避難の際役立つワンボックスカーへの乗り換え
- ・線量計を購入し、自宅周辺の線量を計測
- ・薬を多めにストック



聾学校平分校

- ・飲食物の常備・管理
- ・補聴器の電池を多めに常備。外出時は本人だけでなく、保護者も電池を持ち運ぶ
- ・緊急連絡が取れるよう、連絡を取りたい相手の電話番号、メールアドレス(電話よりメールの方がつながりやすかったため)を携帯電話へ登録
- ・障がい児の親として災害時の対応や知識の習得のための学習の必要性を自覚



富岡養護学校

- ・常に子どもの居場所を確認するよう心がけ
- ・子どもの飲食物を多く常備
- ・外出時に常備薬リストを所持
- ・携帯電話の伝言ダイヤルサービスを利用
- ・学校の防災メールに登録
- ・施設職員の連絡先を確認
- ・担任の先生との良好なコミュニケーション
- ・子どもが理解しやすい写真を見せての情報提供（話し言葉だけで行動できていたが、震災後はストレスで全く動けなくなったことへの対応）

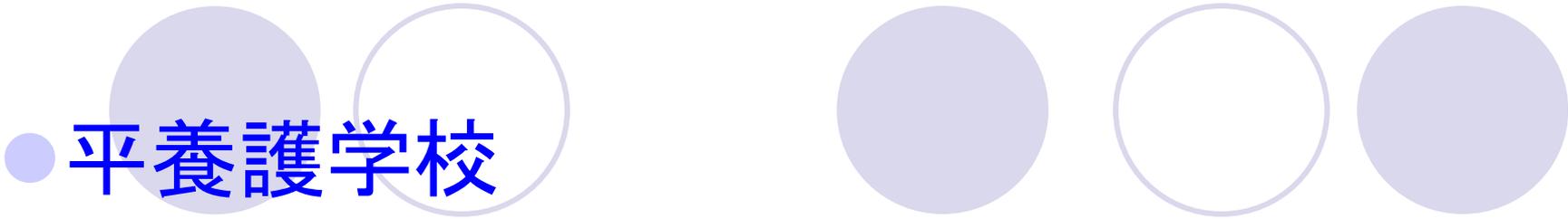


12 学校・先生へ伝えたいこと・お願いしたいこと

● いわき養護学校

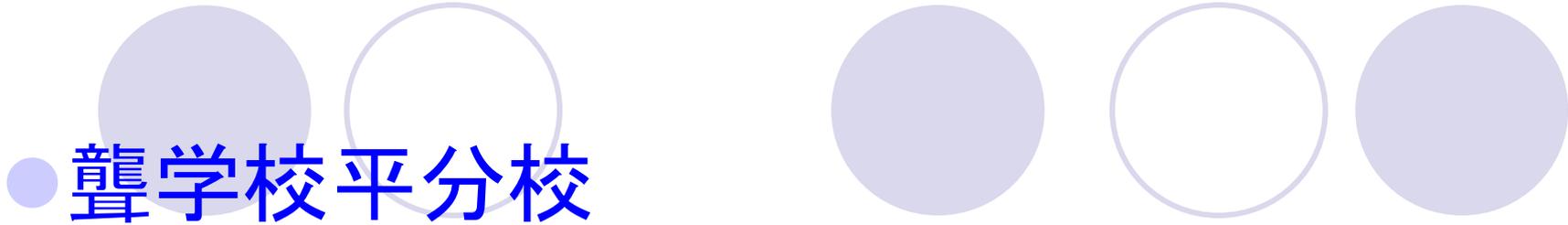


- ・災害マニュアルの作成・改善
- ・震災時の対応（保護者が迎えに行くまでは1カ所に集まり対応してほしい）
- ・連絡網「グルリン」を導入したことは良いと思う
- ・共働きということもあるので、自宅近くで障がい児に理解のある会社へ就職できる進路指導をお願いしたい
- ・子どもの安全を最優先に行動してください。そのことを行っていただけならば不安はありません



● 平養護学校

- もし学校にいるときに災害が起きた場合は、安全を確保した上で、心のケアにも気をつけてほしいと思います
- 不安でいっぱいするときには要望を聞くのではなく、情報を提供してほしい
- 学校の安全が確認できた場合は休校とせず、むしろ登校を受け入れ、そこで、一元的に受診できる等の体制を整えた方がよいのではないかと。個々人が病院や薬局へ出向くより効率的に子どもたちの安全が図れるように思う。
- 子どもたちのために、楽しみにしているイベントはなくさないで続けてほしい。



聾学校平分校

- ・子どもを守ってください。危機を何とか乗り越え生きていけるような学びをさせてください
- ・災害が起こり、親が学校へ迎えに行けないときには、迎えに行くまで責任をもって対応してほしい
- ・3. 11の震災のとき、学校にいました。先生方は自分の家族も心配だったでしょうが、子どもたちに寄り添い、子どもたちを不安にさせないように本当によくしていただきました。ありがとうございました。

● 富岡養護学校

- 保護者への連絡を正確にお願いしたい
- 心が安らげるよう対応してほしい
- 震災後、全く動かず、ストレスでつばを吐き続けていた中で、先生方の努力で学校へ行くリズムができ本当に助かりました。感謝の気持ちでいっぱいです。
- 普段から親身な対応に心から感謝している。本当にありがたい。今後とも子どもにとって安心できる場所であり続けてほしい。
- 先生も大変な中で、こまめに連絡をいただきました。



13 国や東京電力へ言いたいこと、お願いしたいこと

● いわき養護学校

- ・福島県民、子どもたちのことを考え、正しい情報の提供をお願いしたい。情報を早く出してほしい
- ・津波被害者にもしっかりと補償してほしい
- ・一日も早く廃炉にしてほしい
- ・原発の津波対策が全く無策であった。東電は当事者意識が全くない。
- ・安心・安全な日常生活を送れるようにしてほしい
- ・今までの生活を返してほしい。自宅に帰れないのであれば早く補償をしてもらい元の生活に近い生活に戻したい。
- ・未だに続く原発からの放射性物質の放出。たとえ微量とはいえ確実に毎日あびている現状なのに、国は政局に、東電は後手後手の対応ではないか

平養護学校

- 避難所に避難したくても避難できない障がい者がいることを理解してほしい
- 不安なことがたくさんある。震災弱者の側に立った対応をしてほしい
- 内部被曝検査や甲状腺検査を速やかに実施してほしい
- 原発の今の状況や放射線量など、正確な情報を提供してほしい
- 原発はゼロにしてほしい。再生エネルギーにもっと力を入れてほしい
- ホットスポットはいわき市内にも多数ある。風評被害もある。いわき市民への補償をもっと行ってほしい
- 家族が離ればなれで生活。高速道路の無料は続けてほしい
- 国道6号線が通行できないため外泊の回数が減り親子共々精神的苦痛を受け、経済的負担も大きい。何か対応してほしい
- 子どもたちの将来まで責任をもって補償してほしい

聾学校平分校

- ・安全対策、補償を引き続きお願いしたい
- ・嘘、偽りなく、誠意を見せてほしい
- ・今回のことを良き学びとして、決して忘れないでほしい
- ・電車通学をしていたので、子どもたちのために早く対応してほしい



富岡養護学校

- ・正しい情報を速やかに公表してほしい(事故をかくさない)
- ・避難、移動の繰り返しでそのストレスは計り知れない。障がいのある子どもにも少し目を向けてほしい。大変な思いをしている方が大勢いると思う
- ・障がいのある者への理解が足りない。通常の方と変わらない対応で、こちらの言うことを理解してもらえない
- ・補償をしっかりとしてほしい
- ・除染やインフラの整備をしてから避難解除をしてください。震災前のように戻してください。原発事故を早期に解決してください
- ・原発事故の影響で子どもが行く施設がなくなってしまった。子どもが行ける施設を作ってほしい
- ・実情を踏まえた対応を早急にしてもらいたい
- ・対応の遅れ、他人事のような政策、人としての尊厳を無視するような賠償等、無責任にもほどがある。新たな生活拠点作りのためにも迅速かつそれなりの賠償を速やかに実施してほしい。路頭に迷っているのは私たちである。
- ・目に見えない将来の影響が不安です。
- ・一日も早く日本の国から原発をなくしてほしい

14 行政(市役所等)に言いたいこと、お願いしたいこと



● いわき養護学校

- 弱者に対してもっと優しい対応。各種手続きの簡略化
- 正しい情報の提供。国や東電との話し合いの状況報告
- 避難所に避難できない被災者への支援物資の支給
- 除染作業の早期実施
- 定期的な子どもに対する検査の継続的な実施
- 障がい者向け住宅の早期建築
- 子どもを預けられるサービスの拡大・向上(震災で収入が減り働かなければならなくなったため)
- 早期の復旧
- 津波被害者に対する義援金の再配分



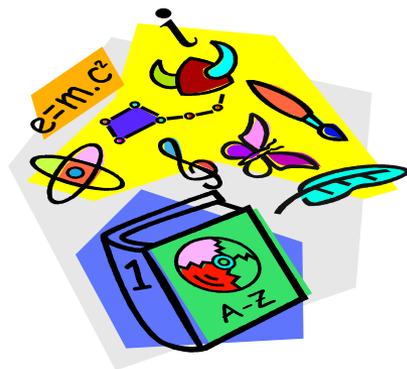
平養護学校

- ・大震災の際の安否確認の実施
- ・書類提出が多い。手続きの簡略化
- ・避難できない障がい者家族への配給の実施（例：手帳の提示で配給を受けられるようにする等）
- ・障がいの状況に応じた配給品の支給
- ・内部被曝検査実施場所の適切な指定
- ・障がい者家族への適切な避難場所の確保
- ・正しい情報を早めに提供
- ・福祉事業所への看護師配置への補助
- ・積極的な国への働きかけ



● 聾学校平分校

- 障がい者家族への早めの対応・支援の実施
- 安全対策・補償の継続実施
- 各種申請手続きの簡略化
- 夜間救急受診(子ども)の際の医療費支払いの中止
- 内部被曝検査実施日の柔軟な対応(自宅と学校が離れていて地区が違う場合の検査場所と日時の決定の仕方)



富岡養護学校

- 避難時の柔軟な対応（避難所となった体育館での生活が難しいため福祉施設を紹介されたが、市内在住ではないため、はじめは利用を断られた）
- 緊急時に障がい者が安心して避難できる専用の避難所の設置（福祉避難所）
- 障がい者への素早い対応
- 富岡町へは国、東京電力との粘り強い賠償交渉。いわき市へは双葉郡からの避難者を温かく見守ってほしい
- 障がい者が働くことができる場所の確保。卒業後を支えるシステムの充実
- 福祉に関する情報の提供

14 福祉施設に言いたいこと・お願いしたいこと

● いわき養護学校

- ・さらなる情報の提供
- ・障がい者向けデイサービスの拡充(定員・サービス日)
- ・安否確認の際の連絡体制の整備(一斉メール配信等～)
- ・子どもの実態のさらなる理解
- ・災害時の子どもの安全確保

● 平養護学校

- ・連絡体制の整備(衛星電話の導入等)
- ・食料品などの備蓄の整備
- ・障がい者向けデイサービスの拡充(定員・サービス日・医療的ケアへの対応)
- ・施設の衛生(今後とも清潔な施設であり続けてほしい)



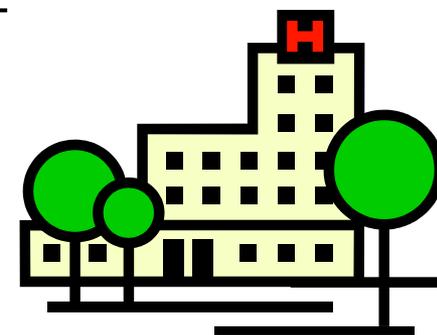
聾学校平分校

- ・障がい者と健常者が共に生きる社会の実現に向けた個性を十分に活かしたかわりの充実
- ・さらなる就職支援



富岡養護学校

- ・福祉避難所の役割
- ・避難の際、障害者優先の少人数の部屋の確保
- ・相談窓口の開設
- ・障がい者に対して理解ある職員のさらなる配置
- ・職員の待遇改善
- ・障がい者に優しい施設・設備の充実



15 医療施設にお願いしたいこと

● いわき養護学校

- ・震災後に休診になったところもあった。震災時には避難所を訪問しての診察を行ってほしい

● 平養護学校

- ・医療的ケアに必要な物(イルリガートルや注射器等)の予備を購入できるようにしてほしい
- ・障がいのある子どもは長い待ち時間に対応が難しい。配慮してほしい
- ・障がいのある子どもの受診の際のかかわりをさらに優しく丁寧にしてほしい
- ・車いすの子どもとの雨天時の通院は大変。駐車場に屋根を付けていただくか、駐車するまでの間、正面玄関で子どもを預かってくれるサービスをお願いしたい

● 聾学校平分校

- ・子どもが心配で頼りにしています。不安にならないような対応(傾聴とわかりやすい説明)をお願いしたい

● 富岡養護学校

- ・障がい者が安心して受診や入院できる医療施設の設置・拡充
- ・障がい者一人一人の違いを理解した対応・診察
- ・待ち時間の短縮



16 アンケートから見えてきたこと

(1) 障がい者家族の避難生活の困難さ

- ・福祉避難所の必要性、避難時の医療機関とのさらなる連携の充実の必要性

(2) 生活の不安

- ・避難生活の継続、収入の減少、復旧・復興の遅さ、子どもの進路先の減少

(3) 原発事故への不安

- ・放射性物質の健康への影響（外部被曝・内部被曝）、継続した検診の実施の必要性

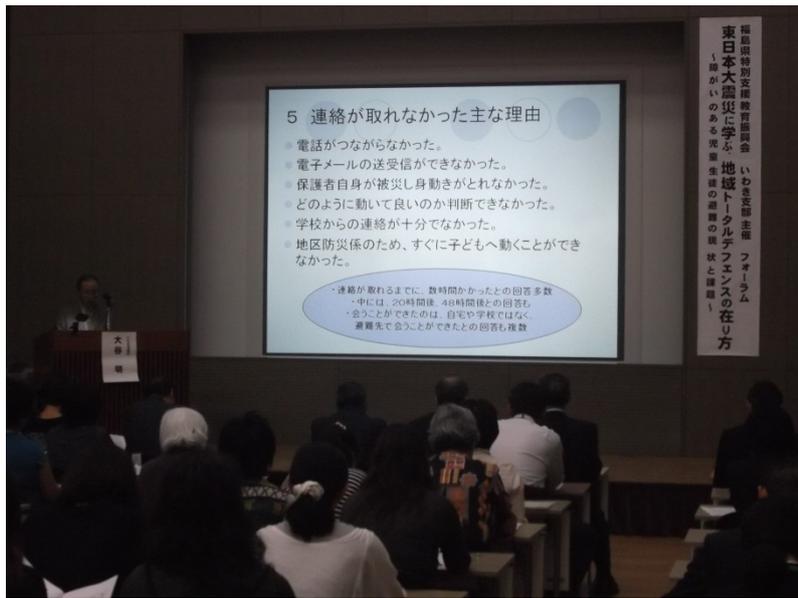
16 アンケートから見えてきたこと

(4) 学校・施設等への期待

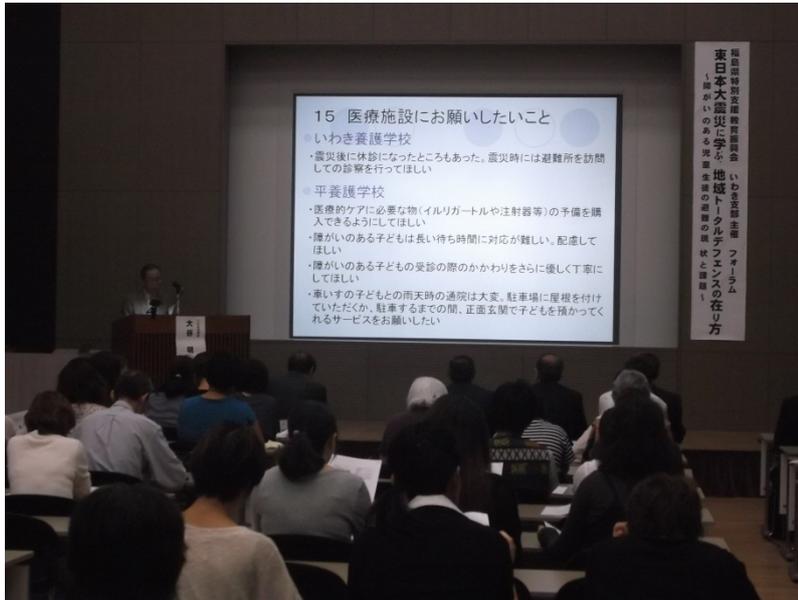
- ・震災発生時の対応や情報提供、進路への対応

(5) 行政への期待・要望

- ・正しい情報の早めの提供、障がい者家族の避難支援（場所、支援物資等）、各種申請の簡略化、各種検査の継続実施



福島県特別支援教育協議会 いわき支部主催 ファイナム
 東日本大震災に学ぶ、地域トータルデフェンスの在り方
 ～障がいのある児童生徒の避難の現状と課題～



福島県特別支援教育協議会 いわき支部主催 ファイナム
 東日本大震災に学ぶ、地域トータルデフェンスの在り方
 ～障がいのある児童生徒の避難の現状と課題～



福島県特別支援教育協議会 いわき支部主催 ファイナム
 東日本大震災に学ぶ、地域トータルデフェンスの在り方
 ～障がいのある児童生徒の避難の現状と課題～